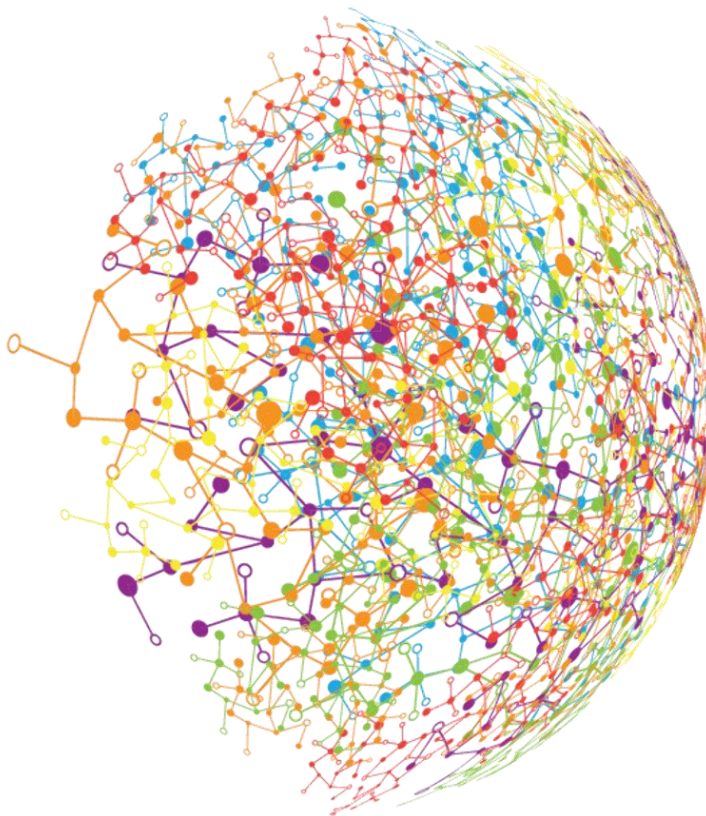


## JICA中小企業・SDGsビジネス支援事業のご応募を検討される企業様向けのオンライン研修

2023年7月10日



**企業向け研修：Day③実践編1**  
開発課題に即した事業立案方法

2023年7月10日

# 研修の全体像

「Day③実践編」では、開発課題解決に資する製品/技術/サービスをお持ちで、具体的に企画書の書き方を知りたいとお考えの企業様に対して、開発課題の即した事業の検討方法や企画書の書き方などをお伝えします

開催日時	7月4日（火） 13:00～17:20	7月7日（金） 13:00～17:20	7月10日（月） 13:00～17:20
研修名	Day①入門編 開発途上国でのビジネス展開の 魅力と可能性	Day②基礎編 中小企業・SDGsビジネス支援事業の 特徴と活用方法	Day③実践編 開発途上国でのビジネスの事業立案と中 小企業・SDGsビジネス支援事業応募時の 企画書の書き方
対象企業像	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発課題解決に資する製品/技術/サービスをお持ちで、<u>開発途上国でのビジネス展開</u>を志向する企業様</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発課題解決に資する製品/技術/サービスをお持ちで、<u>中小企業・SDGsビジネス支援事業（以下、本事業）の活用方法</u>を知りたいとお考えの企業様</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発課題解決に資する製品/技術/サービスをお持ちで、<u>具体的に企画書の書き方</u>を知りたいとお考えの企業様</li> </ul>
狙い・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発途上国でのビジネス展開の実態を知り、自社製品の貢献可能性を理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本事業の特徴や活用方法を理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発途上国での事業立案方法や応募時の企画書の書き方を理解する</li> </ul>
講義内容（予定）	<ul style="list-style-type: none"> <li>13:00～14:00： 開発途上国でのビジネス展開の実態とポテンシャル</li> <li>14:10～15:40： 開発途上国でのビジネス展開の事例（体験談含む）</li> <li>15:50～17:20： 開発課題と自社製品のマッチング</li> <li>17:20～17:30： Q&amp;A</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>13:00～14:00： JICAの特徴と開発途上国でのビジネス展開における強み</li> <li>14:10～15:40： 本事業の提供価値と現地ニーズに合わせた製品・サービスの検討</li> <li>15:50～17:20： 本事業の活用事例（体験談含む）</li> <li>17:20～17:30： Q&amp;A</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>13:00～14:30： 開発課題に即した事業立案方法 14:50～17:20： 企画書の書き方と評価のポイント</li> <li>17:20～17:30： Q&amp;A</li> </ul>

# 質の高い企画書が作成できるよう、途上国ビジネスの魅力から開発課題解決に即した事業立案まで順を追って理解できる内容となっております

## 研修の全体像



# 実践編「開発課題に即した事業立案」の研修概要

本研修は企画書に事業内容を落とし込む準備として、開発途上国における開発課題に紐づく事業の立案方法を理解することを目的としています

## 実施方法

<b>実施形態</b>	セミナー形式（個人ワーク有） ※本日の研修はオンデマンド視聴用に録画をいたします。
<b>実施目的</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開発途上国における開発課題と紐づく事業の立案方法を「顧客」と「価値」の観点から理解する</li> <li>● 事業を企画書に落とし込む準備として「顧客」、「価値」と「社会課題」との関係性を捉える</li> </ul>
<b>登壇講師</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 有限責任監査法人トーマツ 中根 望 他</li> </ul>

## タイムテーブル

開始 ~ 終了	ラップ	内容
13:00 ~ 13:05	5分	本研修の目的 講師紹介
13:05 ~ 13:15	10分	事業開発プロセスの全体像
13:15 ~ 13:40	25分	開発課題と紐づけた事業立案
13:40 ~ 13:55	15分	個人ワーク①（ワーク＋解説）
13:55 ~ 14:05	10分	開発課題へのインパクトを可視化するツール
14:05 ~ 14:20	15分	個人ワーク②（ワーク＋解説）
14:20 ~ 14:30	10分	Q&A

### 個人ワークの位置づけ

本研修の中で紹介する考え方を使得って実際にご自身のアイデアを深めて頂く時間です。これらの考え方は企画書を作成するうえで土台となる思考の整理方法としてご活用いただけます

# 講師紹介

2022年度からの「中小企業・SDGsビジネス支援事業(ガバナンス・平和構築分野)」のJICAコンサルタントをしている有限責任監査法人トーマツのメンバーが本研修を実施します

## 講師



### 中根 望

有限責任監査法人トーマツ  
リスクアドバイザー事業本部  
ガバナメント&パブリックサービスズ  
シニアスタッフ  
情報処理安全確保支援士  
応用情報技術者

#### ■ 経歴

- 国内システムインテグレータにて製造業、商社、金融機関向けの各種システム導入に従事。在籍中にJICA青年海外協力隊（バングラデシュ）を経験
- アビームコンサルティング株式会社（ODA調査や民間企業の海外展開支援に従事）を経て現職
- クラウドサービスの事業開発、海外事業展開支援を経験。JICA民連では過去2社を外部人材として担当し、現在2社を支援中

## ファシリテーター



### 鎌田 滋彦

有限責任監査法人トーマツ  
リスクアドバイザー事業本部  
ガバナメント&パブリックサービスズ  
スタッフ

#### ■ 経歴

- 大学にて国際関係論を専攻
- 在学中に国連ボランティア(UNV)として国連開発計画(UNDP)の東ティモール事務所に派遣され、現地の産業振興等の業務に従事
- 自動車メーカーの調達部門にて新車の開発プロジェクトのマネジメントやソーシング、サプライヤーの企業評価/財務分析、原価低減活動に従事
- 当法人に入所後、日本のスタートアップや中小企業の海外展開支援や海外のスタートアップの都内誘致活動に従事

## ファシリテーター



### 竹内 知成

有限責任監査法人トーマツ  
リスクアドバイザー事業本部  
ガバナメント&パブリックサービスズ  
シニアマネジャー  
ICT for Development修士、ITストラテジスト  
TOEIC 960

#### ■ 経歴

- 国内システムインテグレータ、JICA青年海外協力隊（エチオピア）、在エチオピア日本大使館勤務を経て、マンチェスター大学大学院に進学（情報通信技術を活用した国際開発（ICT for Development）修士課程）
- JICA職員として、情報システム部、経済基盤開発部、ガーナ事務所などで、情報通信分野を中心に多くのODA案件形成や運営管理に従事
- アビームコンサルティング株式会社（ODA調査や民間企業の海外展開支援）を経て現職

## ファシリテーター



### 矢口 宏則

有限責任監査法人トーマツ  
リスクアドバイザー事業本部  
パブリックセクター  
シニアスタッフ  
認定ファシリティマネジャー・技術士補

#### ■ 経歴

- 令和3年度補正インド太平洋地域におけるDX等を通じた社会課題解決型のビジネス共創促進事業（アフリカ市場活力取り込み事業実施可能性調査事業）
- 地方公務員としてインフラの整備及び維持管理、米軍基地跡地を対象とした都市開発検討業務に従事
- 現職では、政令指定都市をはじめとした地方自治体における官民連携によるまちづくり検討やエリアマネジメント事業の立上げ支援、公共施設活用における民間企業とのマッチング支援業務に従事

- 事業開発プロセスの全体像

開始 ~ 終了	ラップ	内容
13:00 ~ 13:05	5分	本研修の目的 講師紹介
13:05 ~ 13:15	10分	事業開発プロセスの全体像
13:15 ~ 13:40	25分	開発課題と紐づけた事業立案
13:40 ~ 13:55	15分	個人ワーク①（ワーク＋解説）
13:55 ~ 14:05	10分	開発課題へのインパクトを可視化するツール
14:05 ~ 14:20	15分	個人ワーク②（ワーク＋解説）
14:20 ~ 14:30	10分	Q&A

# この研修では、「事業開発」をビジネスモデルの発想、顧客への適用、ビジネスモデルの構築に加えて、継続的に改善が行えるサイクルを維持するところまで、とします

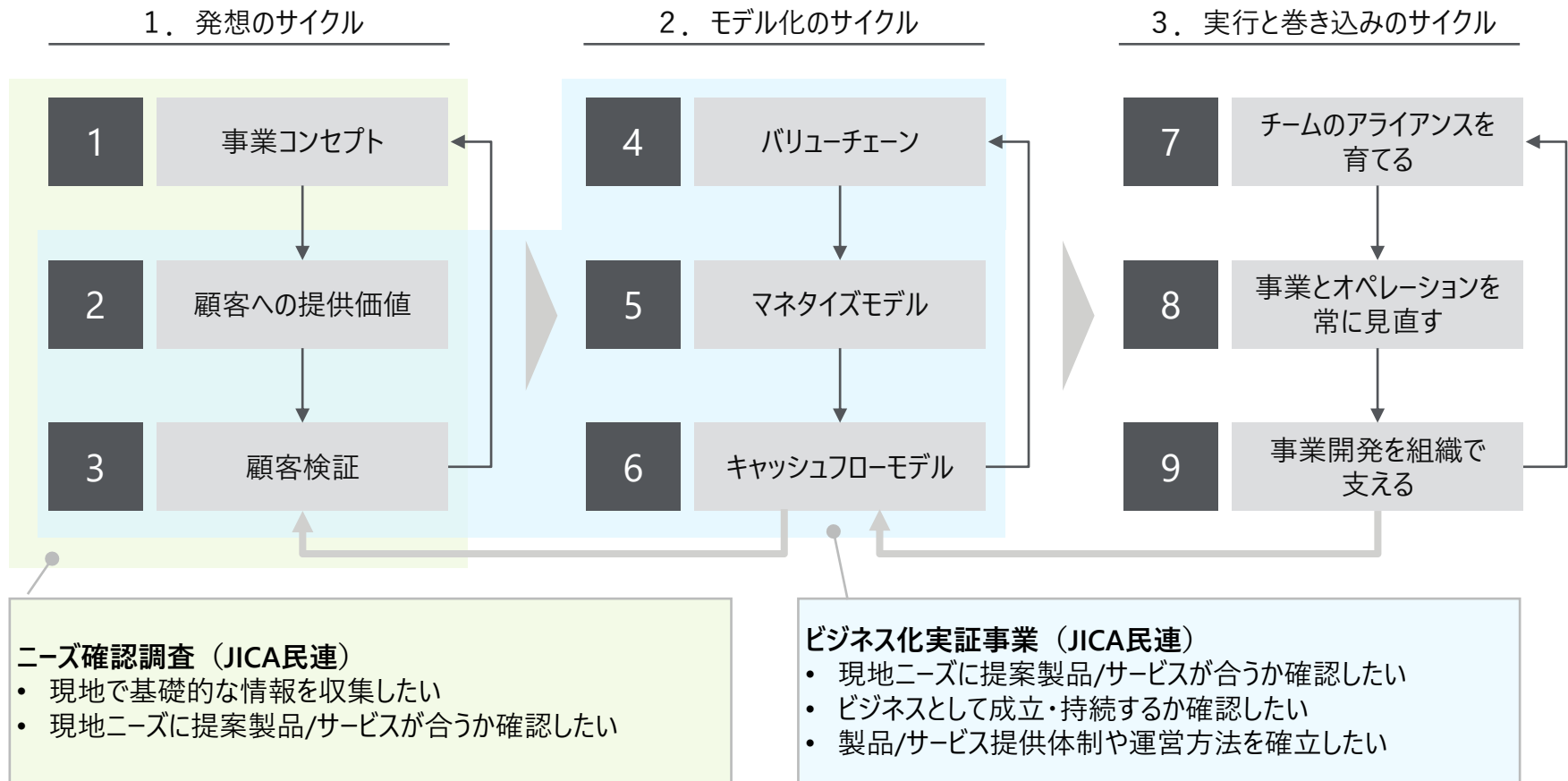
## 事業開発プロセスの全体像





# 事業開発は3サイクル×3ステップの9ステップで捉えるとより具体的な活動がイメージし易くなります。特にJICA民間連携事業では前半の6ステップが重点的にカバーされます

## 事業開発プロセスの全体像



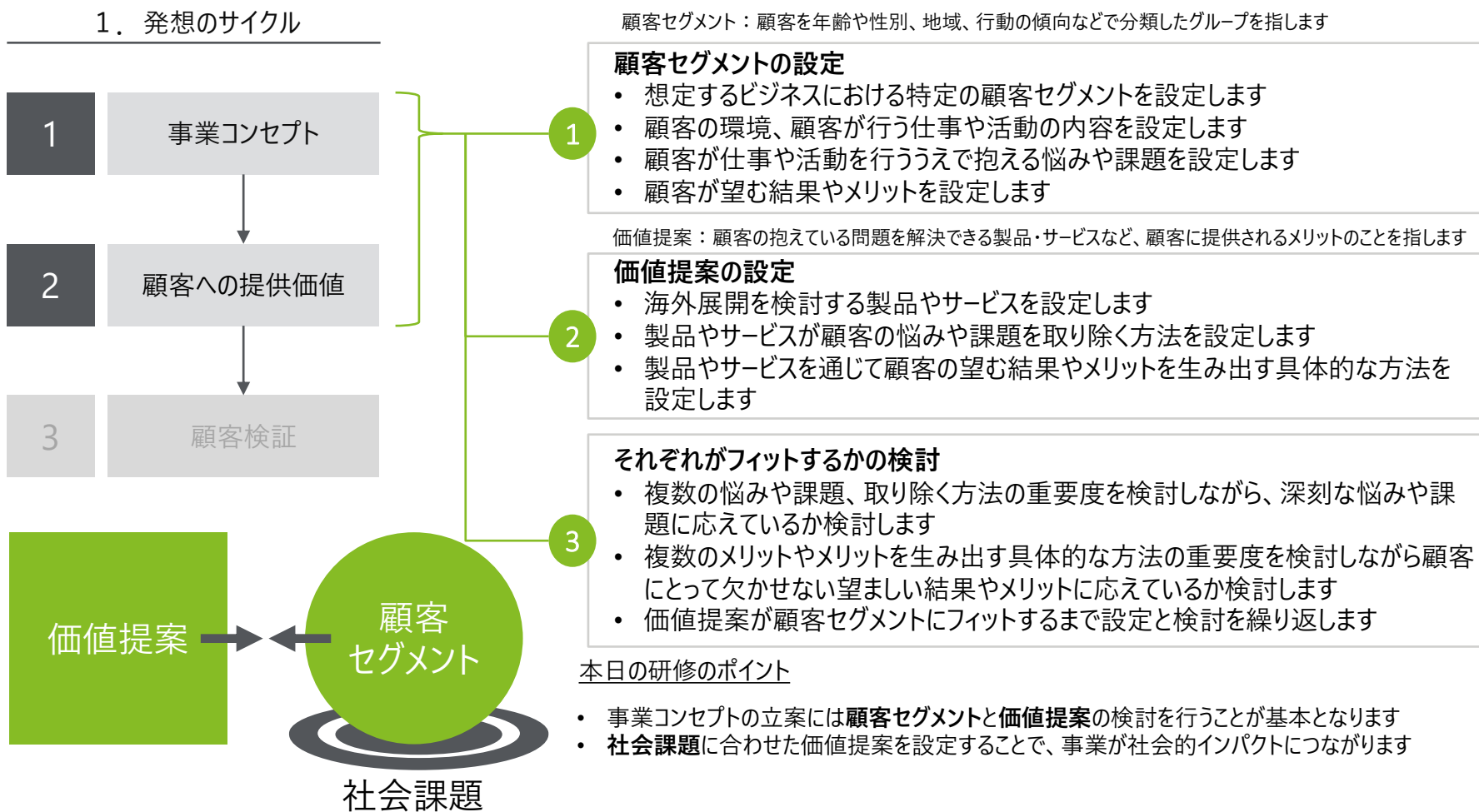
旧制度の普及・実証・事業（調査委託型）を除く、ビジネス化支援型の2スキームに合わせたイメージです

出所：事業開発一気通貫

JICA 中小企業・SDGsビジネス支援事業について（[https://www.jica.go.jp/priv\\_partner/activities/sme/index.html](https://www.jica.go.jp/priv_partner/activities/sme/index.html)）

# 事業立案段階では①顧客セグメントの設定、②価値提案の設定を行い、③それぞれがフィットするか検討しましょう

## 事業開発プロセスの全体像

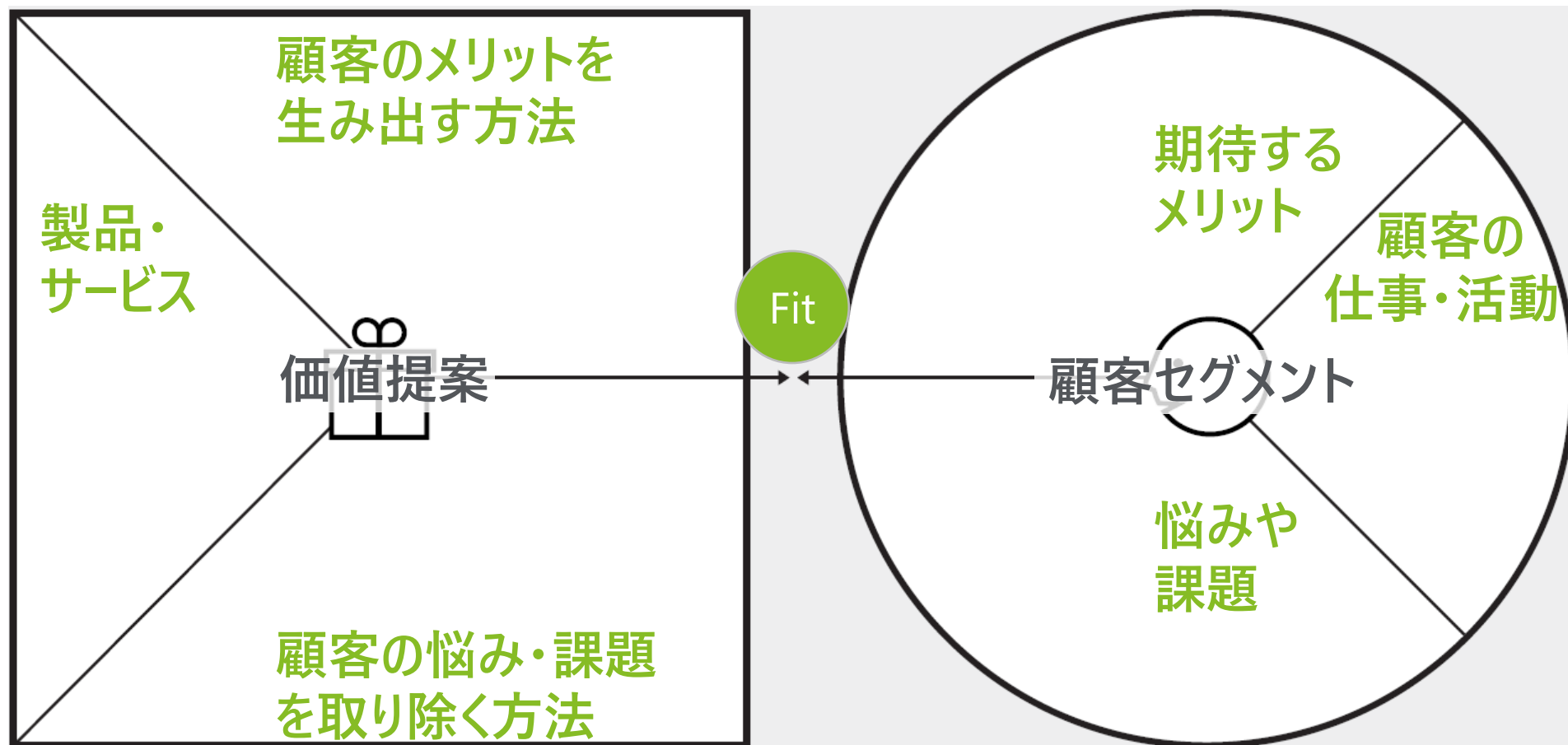


- 開発課題と紐づけた事業立案

開始 ~ 終了	ラップ	内容
13:00 ~ 13:05	5分	本研修の目的 講師紹介
13:05 ~ 13:15	10分	事業開発プロセスの全体像
13:15 ~ 13:40	25分	開発課題と紐づけた事業立案
13:40 ~ 13:55	15分	個人ワーク①（ワーク＋解説）
13:55 ~ 14:05	10分	開発課題へのインパクトを可視化するツール
14:05 ~ 14:20	15分	個人ワーク②（ワーク＋解説）
14:20 ~ 14:30	10分	Q&A

ビジネスモデルの根幹となる「価値提案」と「顧客セグメント」をどのようにフィットさせるか整理するためには 3 : 3 の枠に区切って考えると分かり易くなります

### 開発課題と紐づけた事業立案



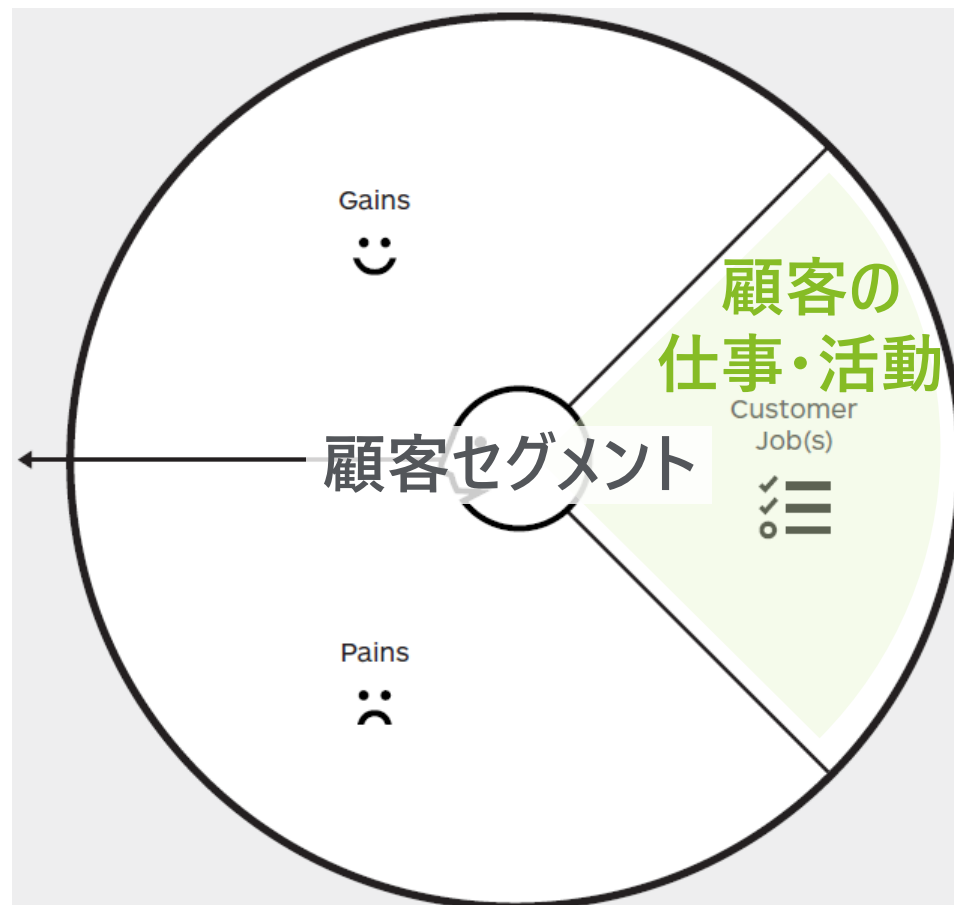
出所：Value Proposition Design (<https://www.strategyzer.com/>)

# ターゲット顧客の環境を想定して、顧客が行う仕事や活動を書き出します

## 開発課題と紐づけた事業立案

### 顧客の仕事・活動

- 設定した顧客の目線に立って「**仕事・活動**」がどのようなものか、**顧客がなにを達成したいか**探りましょう
- 顧客の仕事・活動の例をあげます
  - 機能的／社会的な仕事・活動：果たそうとしている具体的な任務または解決したい特定の問題（例：技術者を育てる、病気を減らす/治す、健康的な食生活を送る、公共交通を提供する、社会の秩序を守る等）
  - 個人的／感情的な仕事・活動：行うことで気分が上向いたり安心したりするようなこと（例：いい買い物、職場で安定的に働けること等）
- 特定の制約や制限になることがあるため、仕事・活動を行う**環境についても明示**しましょう
- 様々な**仕事・活動の重要性**を意識しておきましょう

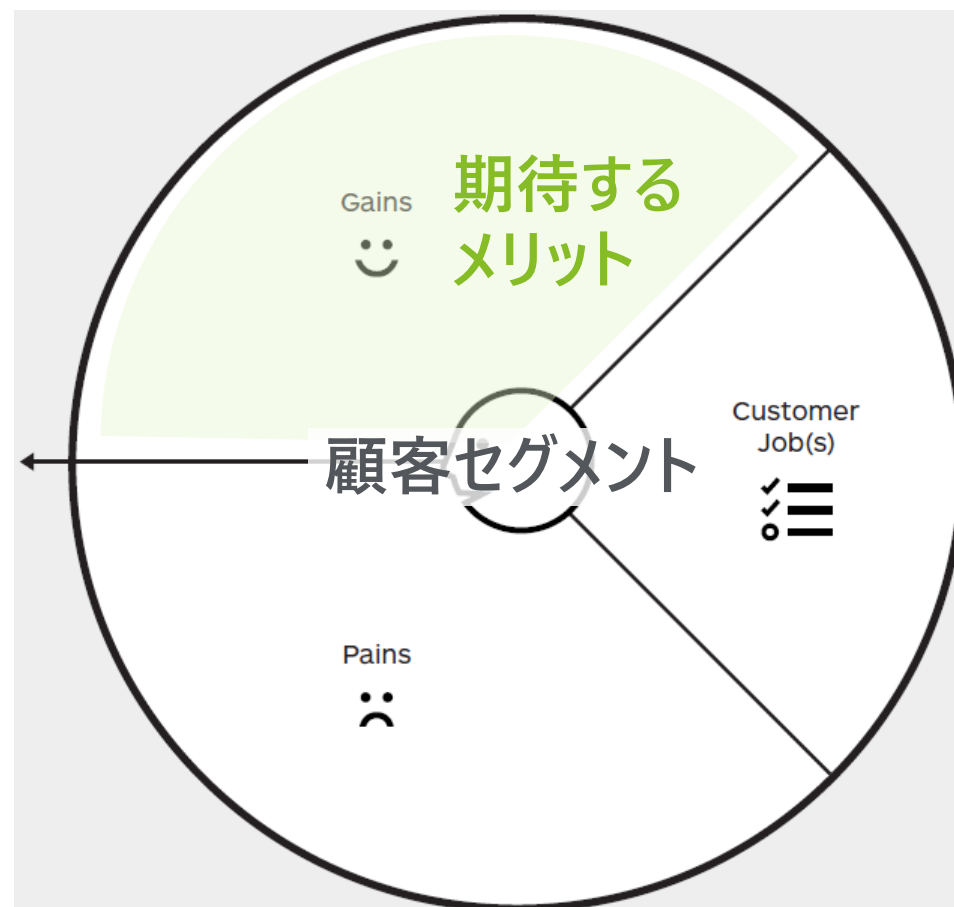


# 顧客の望む結果や恩恵について重要度を意識しながら書き出します

## 開発課題と紐づけた事業立案

### 期待するメリット

- 顧客の望む**結果や恩恵**のことです。機能面での利便性、社会的な恩恵、前向きな感情、費用の削減などが期待するメリットに含まれます
- メリットの例をあげます
  - 必要不可欠なもの
  - 望ましいもの：基本的なものに加えて、もしあればありがたいもの
  - 予想外なもの：顧客の期待や要望を超えるもの（顧客に尋ねてもわからない）
- 様々なメリットには**必要不可欠から便利というものまで必要性が異なる**ことを意識しておきましょう



# 顧客の悩みやリスクを深刻度を意識しながら書き出します

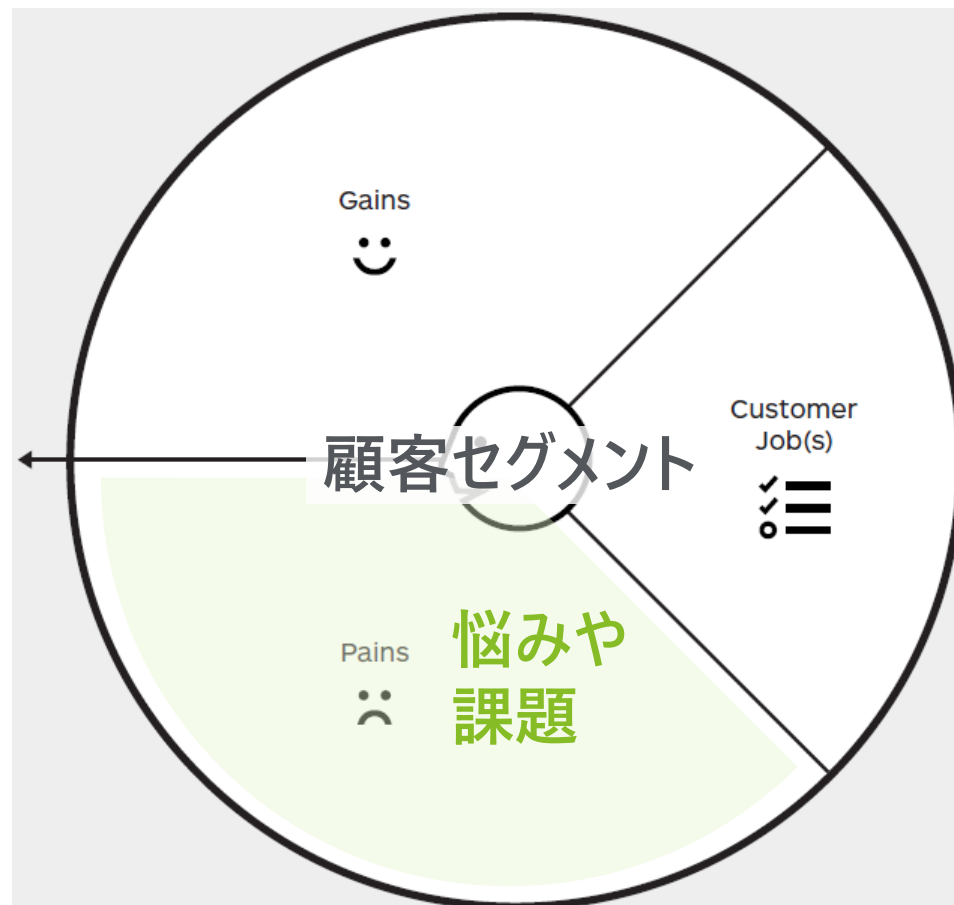
## 開発課題と紐づけた事業立案

### 悩みや課題

- **顧客を悩ませること**や、仕事や活動の達成の障害となるものです。また、**悪い結果につながるリスク**、完成を妨げるリスクも含まれます
- 悩みや課題の例をあげます
  - 望ましくない結果：機能的にうまくいかないもの、感情的に好ましくない状態、気に入らないもの
  - 障害：活動を妨げるもの、遅らせるもの
  - リスク：望まない結果をもたらす可能性があるもの
- **きわめて深刻な悩みから、ほどほどの悩みまで**であることを意識しておきましょう

#### 開発課題に即して考えるポイント

想定する顧客が抱える課題の中で対象地域の社会的課題（JICAのグローバル・アジェンダ、SDGsに該当するものが無いか等）との関連性を意識しましょう



# 顧客が抱える悩み・リスクと開発課題との関連性はJICAの設定するグローバル・アジェンダを参考に検討できます

## グローバル・アジェンダ

JICAは、保健医療、紛争、気候変動等、複雑化する開発課題に挑むため、20の「JICAグローバル・アジェンダ（課題別事業戦略）」を設定し、取り組みを強化しています。

## 開発課題と紐づけた事業立案

1. 都市・地域開発

**都市マネジメントで、暮らしやすく持続可能な街を**

都市行政の能力を強化し、基学習やコミュニティなど多様な関係者とともに住みよい街をつくります。



2. 運輸交通

**すべての人・モノが安全かつ自由に移動できる世界へ**

運輸交通は、人間社会において人々が文化的に、未来に向かって創造的に生きていくための活力の源泉です。



3. 資源・エネルギー

**誰もが安心して電気を使える世界へ**

すべての人が手頃な価格でクリーンなエネルギーや資源を安定的に利用し、豊かな生活を送れる社会の実現を目指します。



4. 民間セクター開発

**民間企業を育成し、途上国の経済成長を促す**

所得を向上させ、財政を支える民間企業を育成・強化、イノベーションや投資も推進し、質の高い経済成長の実現へ。



5. 農業・村落開発

**みんなが豊かになる農業を実現し貧困と飢餓をなくす**

開発途上国の「食」を支える小規模農家の所得を向上させることで農業をビジネスへ発展させます。



6. 保健医療

**どんなときでも人々の健康を守る体制づくりを**

「UHC世界保健医療イニシアティブ」を通じ、新型コロナウイルス感染症など健康を脅かす危機に強固に対応します。



7. 栄養の改善

**健康な未来へ導く適切な栄養を、すべての人々に**

途上国の子どもを中心に深刻な影響を与えている。低栄養と過栄養の二重負担を軽減します。



8. 教育

**一人ひとりが生き生きと輝く、質の高い教育を**

良質な教育を提供し、みんなが尊厳をもって生きることができるよう社会基盤を築きます。



9. 社会保障、障害と開発

**誰もが尊厳をもって自分らしく生きる世界を目指して**

コロナ禍で改めて浮き彫りとなった、社会や経済の変化に脆弱な層の生活を支える取り組みを進めます。



10. スポーツと開発

**すべての人々が、スポーツを楽しめる平和な世界に**

性別や社会的立場などの制約を受けず、みんなが等しくスポーツを楽しむ平和な社会を実現します。



11. 平和構築

**恐怖と暴力のない平和で公正な社会を目指して**

誰のとりどころもない平和な社会を実現するための紛争を発生・再燃させない積極的な国・社会づくりに貢献します。



12. ガバナンス

**すべての人々が、尊厳をもって暮らせる社会を**

人権の保障、民主主義、法の支配を実現し、一人ひとりが尊重される社会の構築を支援します。



13. 公共財政・金融システム

**財政・金融の基盤を強化、経済の安定と成長を目指す**

途上国の経済を安定させ成長を促すために、財政・金融、税関行政の適切な運営を支援します。



14. ジェンダー平等と女性のエンパワメント

**性別にとらわれず誰もが能力を発揮できる社会に向けて**

女性や女性のエンパワメントを推進し、人々の意思・行動を支えることで、ジェンダー平等で公正な社会の実現を目指します。



15. デジタル化の促進

**DXで、一人ひとりが多様な幸せを実現できる社会へ**

デジタルの活用で一人ひとりの安全暮らしと多様な幸せを実現できる社会を目指します。



16. 気候変動

**途上国とともに、気候変動の脅威に立ち向かう**

早急な取り組みが必要とされる気候変動に対応するため、途上国の対応能力向上に協力し、持続可能な社会を目指します。



17. 自然環境保全

**次世代へ豊かな自然の恵みを引き継ぐ**

自然と人間の調和を図り、自然環境の減少・劣化を防ぐことで多くの恵みを享受し続けられる社会を目指します。



18. 環境管理

**環境の汚染を防ぎ、健康に暮らせるきれいな街へ**

廃棄物や、水・大気の汚染、健康被害を引き起こす環境の問題に取り組む、きれいな街をつくります。



19. 持続可能な水資源の確保と水供給

**すべての人々が安全な水を飲める社会へ**

水資源を適切に管理し、すべての人々が飲料水等として持続的に利用できる社会を目指します。



20. 防災・復興を通じた災害リスク削減

**強靱な国の基盤をつくり、命を守って経済を発展させる**

防災・復興は「人間の安全保障」と「持続可能な開発」に貢献する取り組みです。

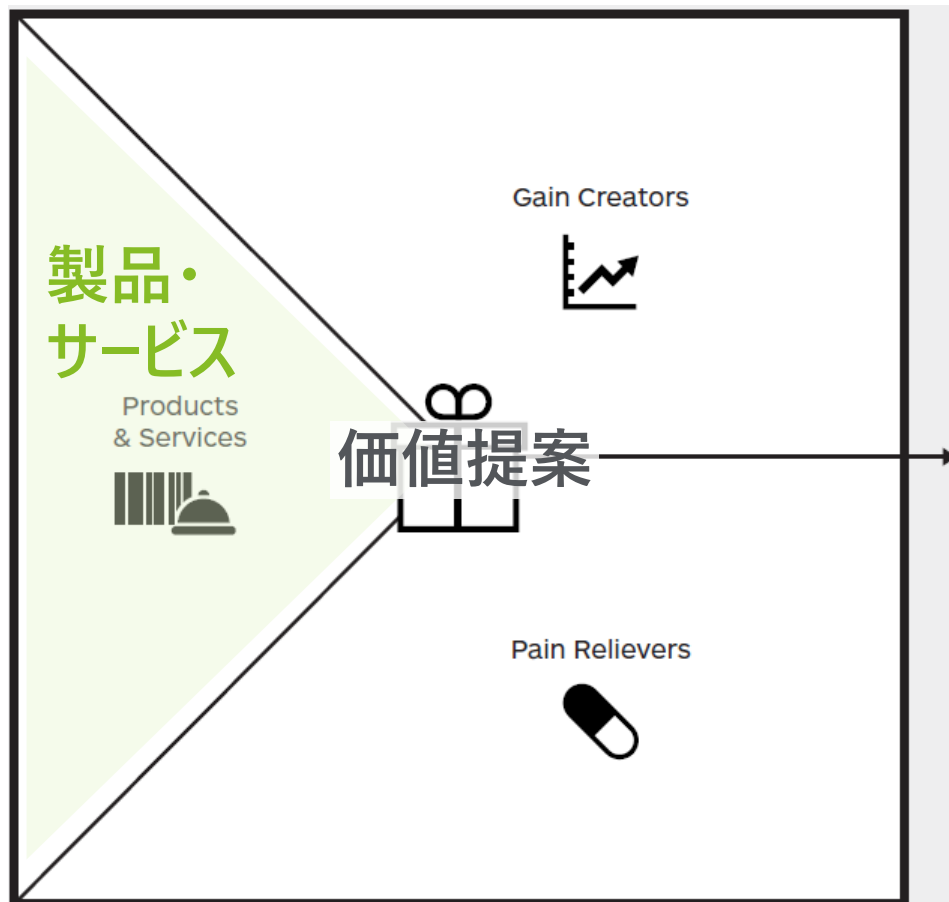


出所：JICA グローバル・アジェンダ (<https://www.jica.go.jp/activities/#anchor1>)



# 海外展開を検討している製品やサービスを、顧客にとっての重要性を意識して書き出します

## 開発課題と紐づけた事業立案

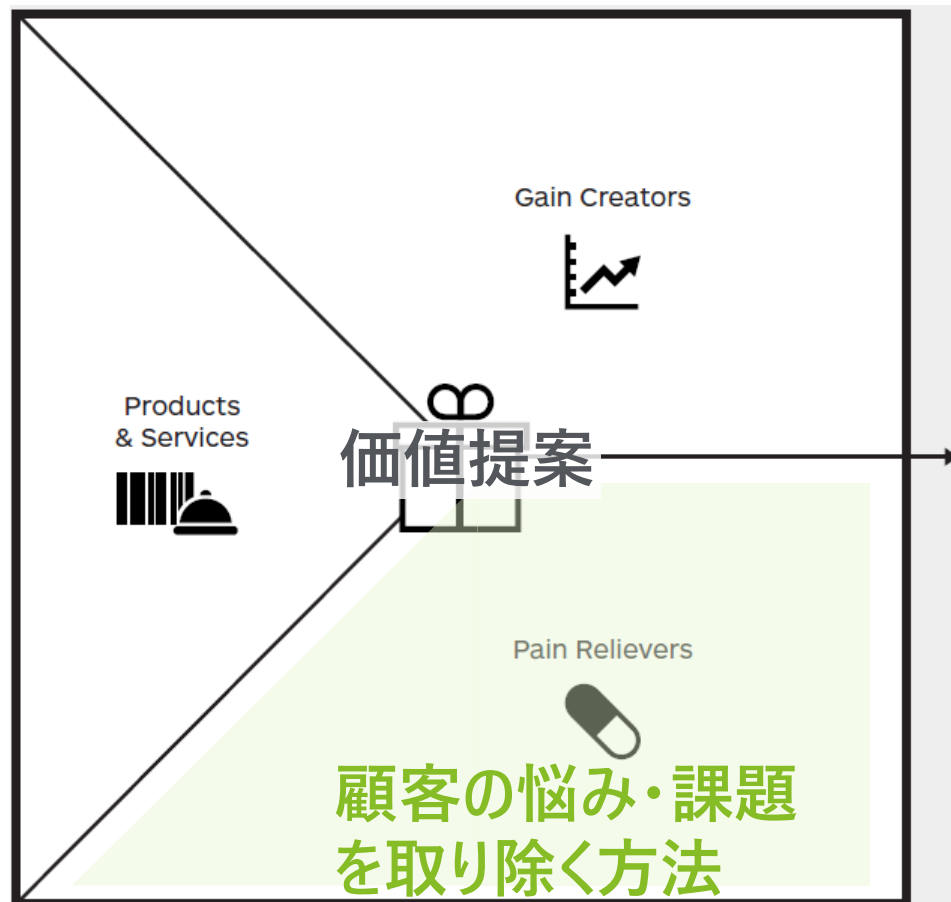


### 製品・サービス

- 製品とサービスとして**提供するもののリスト**です
- 製品とサービスの例をあげます
  - 物理的なもの・目に見えるもの：製造物、品物
  - 目に見えないもの：専門性や体験を提供するサービス
  - デジタルなもの：音楽ダウンロードやオンライン商品
- すべての製品・サービスが重要であるわけではなく、価値提案として**欠かせない製品とサービス**、どうしても必要というわけではないが、**あった方がよい製品とサービス**があることを意識しておきましょう

# 製品とサービスによって顧客の悩みを取り除く方法を重要度を意識して書き出します

## 開発課題と紐づけた事業立案



### 顧客の悩み・課題を取り除く方法

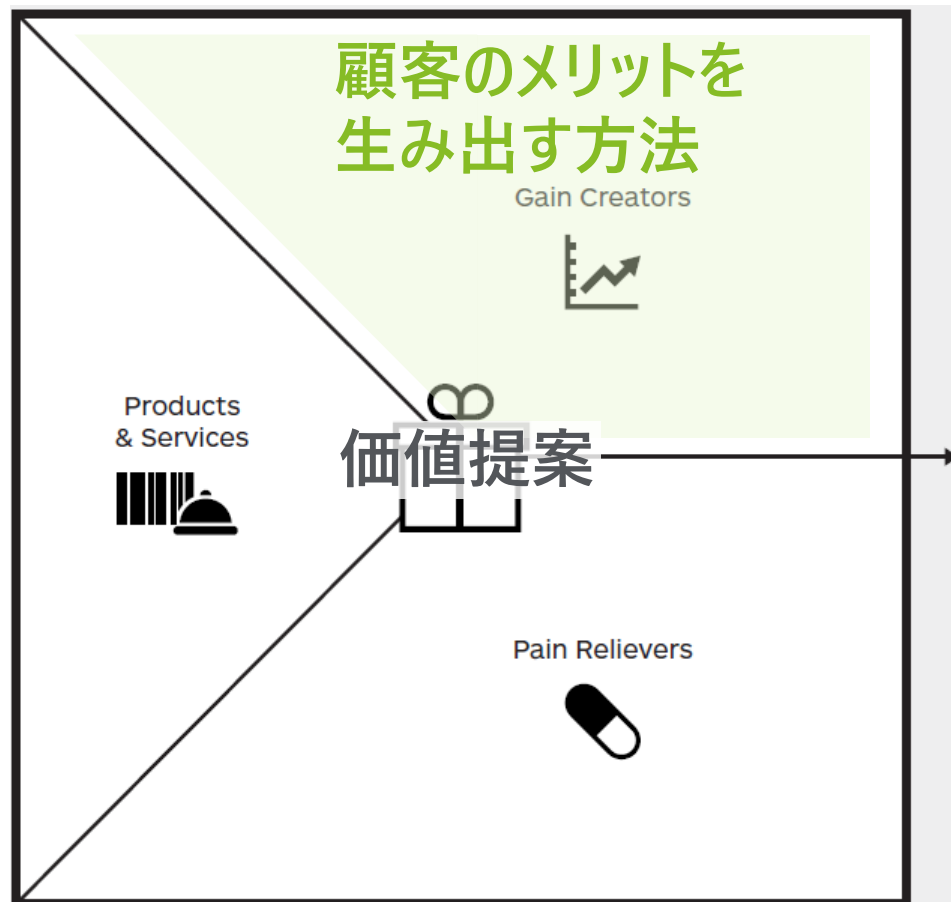
- 製品とサービスによって顧客の悩み・課題を取り除くための、具体的な解決方法です
- 例をあげます
  - 時間、お金、または労力の節約につながること
  - 顧客の気分、不満や悩みをはらすこと
  - 顧客の問題や課題を処理すること
  - 価値提案の妨げになるものを取り除くこと（障害を排除すること）
- 顧客にとって重要（必要不可欠）な解決方法もあれば、それほど重要でない（あれば便利な）ものもある、ということ意識しておきましょう

#### 開発課題に即して考えるポイント

想定する顧客が抱える課題の中で対象地域の社会的課題（JICAのグローバル・アジェンダ、SDGsに該当するものが無いかな等）との関連性を意識しましょう

# 製品とサービスによって顧客の期待、望み、結果や恩恵を生み出す方法を重要度を意識して書き出します

## 開発課題と紐づけた事業立案

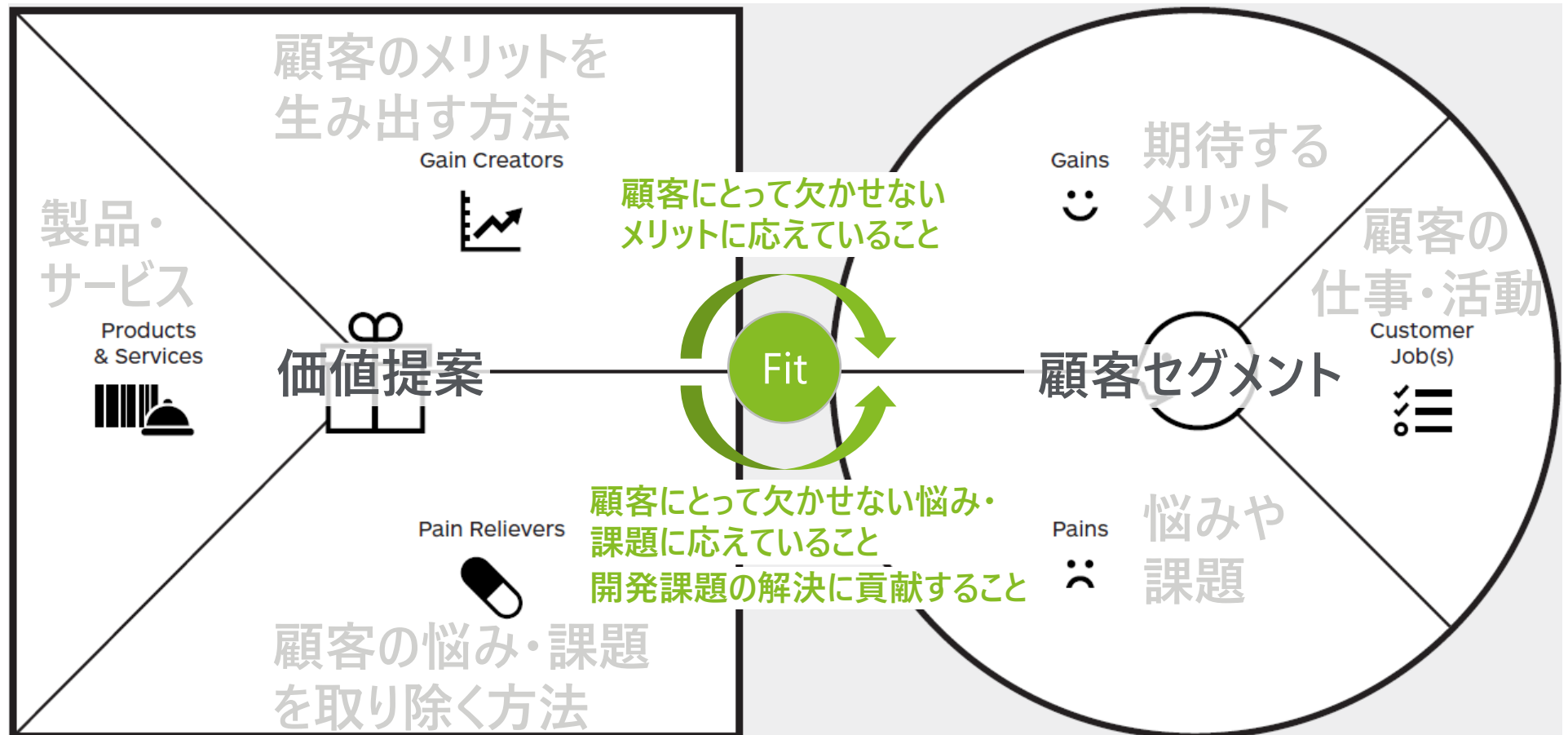


### 顧客のメリットを生み出す方法

- 製品とサービスを通じて顧客のメリットを生み出す、具体的な方法です
- 例をあげます
  - 顧客が期待し、望み、驚くような結果や恩恵を生み出すもの
  - 機能的な利便性
  - 社会的な利得
  - 前向きな感情
  - 費用の節約
- 顧客の結果と利得にきわめて大きくかかわる方法もあれば、それほどでもないものもある、ということ意識しておきましょう

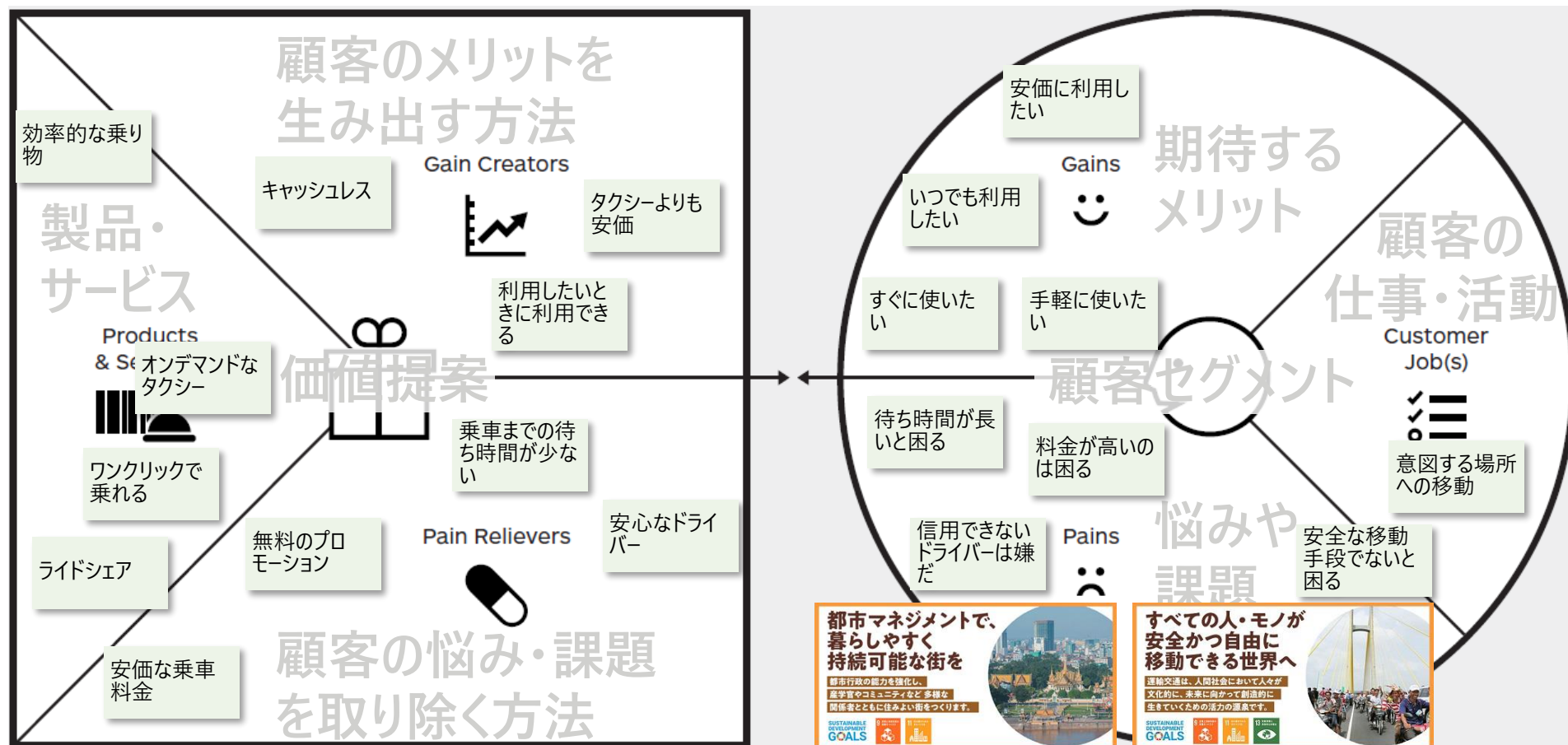
# 顧客にとって最も重要なメリット、解決されていない一番の悩み、開発課題との関連性に注目して役立つ価値提案を探し続けましょう

## 開発課題と紐づけた事業立案



# 記載例 Uber Taxi

## 開発課題と紐づけた事業立案



出所：Value Proposition Design (<https://www.strategyzer.com/>)

- 個人ワーク①

開始 ~ 終了	ラップ	内容
13:00 ~ 13:05	5分	本研修の目的 講師紹介
13:05 ~ 13:15	10分	事業開発プロセスの全体像
13:15 ~ 13:40	25分	開発課題と紐づけた事業立案
13:40 ~ 13:55	15分	個人ワーク①（ワーク＋解説）
13:55 ~ 14:05	10分	開発課題へのインパクトを可視化するツール
14:05 ~ 14:20	15分	個人ワーク②（ワーク＋解説）
14:20 ~ 14:30	10分	Q&A

# 個人演習で顧客セグメントと価値提案を整理してみましょう！

## 手順 1 右側を記載

想定する顧客の仕事・活動、悩み、メリットを記載

悩みに関連する開発課題をJICA グローバル・アジェンダから設定

## 手順 2 左側を記載

提供する製品・サービス、悩みの取り除き方、メリットの作り方を記載

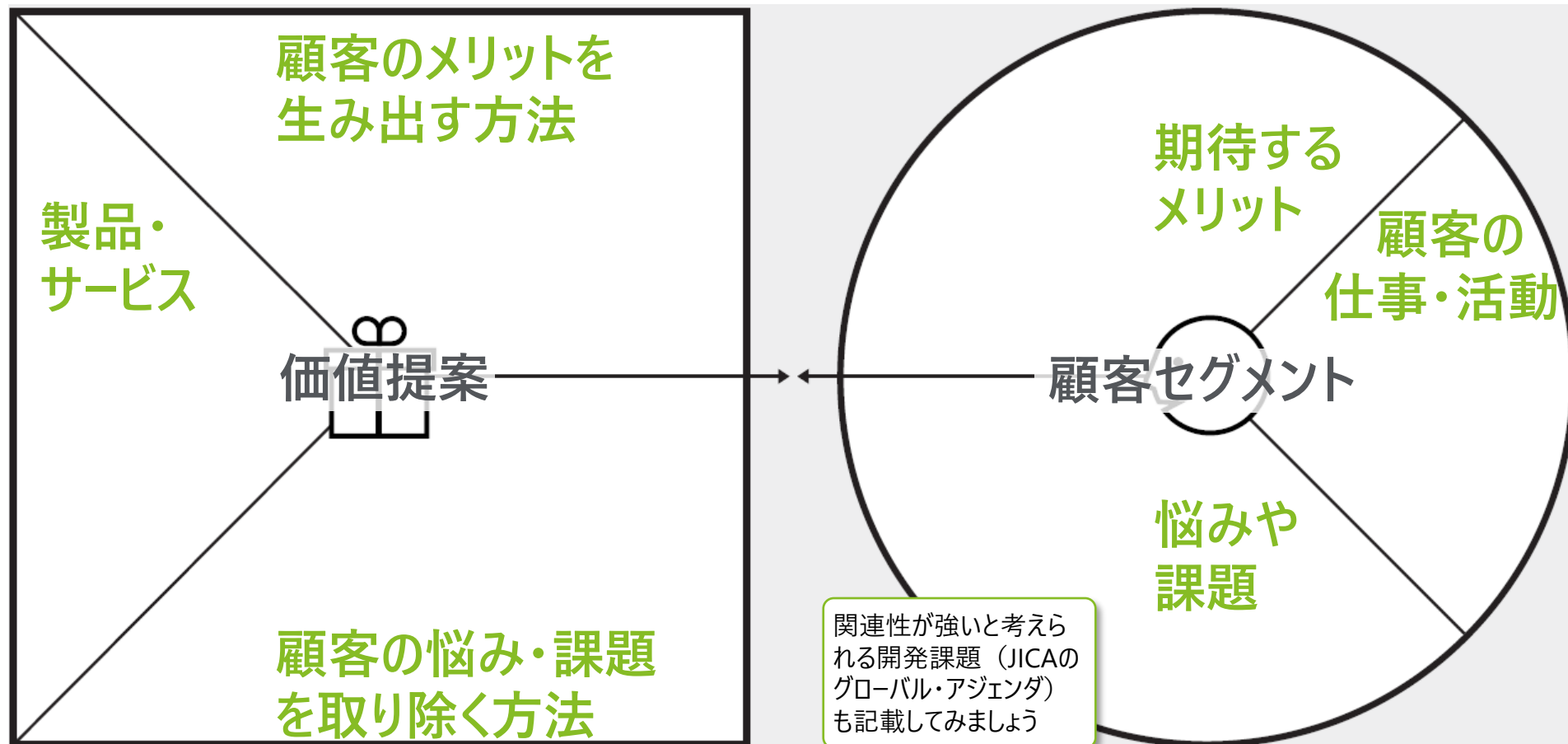
## 個人演習時間 15分

### 進め方のヒント

- 右側（顧客の設定）より左側（製品・サービス）を先に設定する方が検討しやすい場合は、そのように進めて頂いて構いません
- 例えば、まずは自社で海外展開を検討できる製品・サービスの情報を左側に記載し、どのような顧客のどのような悩みを解決するものなのか、どのようなメリットを生み出すものなのか、検討しながら両側が具体的にフィットするか検討することも可能です

手元のA4用紙やノートに□と○を書き、下の図のように3つに分ける線を記載してください。  
想定される顧客の国、地域、仕事や活動を決め、その他項目を埋めてみましょう

### 個人ワーク①



出所：Value Proposition Design (<https://www.strategyzer.com/>)



# 顧客が抱える悩み・リスクと開発課題との関連性はJICAの設定するグローバル・アジェンダを参考に検討できます

再掲

## 個人ワーク①

1. 都市・地域開発

**都市マネジメントで、暮らしやすく持続可能な街を**

都市行政の能力を強化し、基幹官やコミュニティなど多様な関係者とともに住みよい街をつくります。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

2. 運輸交通

**すべての人・モノが安全かつ自由に移動できる世界へ**

運輸交通は、人間社会において人々が文化的に、未来に向かって創造的に生きていくための活力の源泉です。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

3. 資源・エネルギー

**誰もが安心して電気を使える世界へ**

すべての人が手頃な価格でクリーンなエネルギーや資源を安定的に利用し、豊かな生活を送れる社会の実現を目指します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

4. 民間セクター開発

**民間企業を育成し、途上国の経済成長を促す**

所得を向上させ、財政を支える民間企業を育成・強化、イノベーションや投資も推進し、質の高い経済成長の実現へ。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

5. 農業・村落開発

**みんなが豊かになる農業を実現し貧困と飢餓をなくす**

開発途上国の「食」を支える小規模農家の所得を向上させることで農業をビジネスへ発展させます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

6. 保健医療

**どんなときでも人々の健康を守る体制づくりを**

【ICN世界保健医療イニシアティブ】を通じ、新型コロナウイルス感染症など健康を脅かす危機に強固に対応します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

7. 栄養の改善

**健康な未来へ導く適切な栄養を、すべての人々に**

途上国の子どもを中心に、深刻な影響を与えている。低栄養と過栄養の二重負担を軽減します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

8. 教育

**一人ひとりが生き生きと輝く、質の高い教育を**

良質な教育を提供し、みんなが尊厳をもって生きることができるよう社会基盤を築きます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

9. 社会保障、障害と開発

**誰もが尊厳をもって自分らしく生きる世界を目指して**

コロナ禍で改めて浮き彫りとなった。社会や経済の変化に脆弱な層の生活を支える取り組みを進めます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

10. スポーツと開発

**すべての人々が、スポーツを楽しめる平和な世界に**

性別や社会的な立場などの制約を受けず、みんなが等しくスポーツを楽しめる平和な社会を実現します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

11. 平和構築

**恐怖と暴力のない平和で公正な社会を目指して**

誰のとり取り残さない平和な社会を実現するための闘争を発生・再発させない強固な国・社会づくりに貢献します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

12. ガバナンス

**すべての人々が、尊厳をもって暮らせる社会を**

人権の保障、民主主義、法の支配を実現し、一人ひとりが尊重される社会の構築を支援します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

13. 公共財政・金融システム

**財政・金融の基盤を強化、経済の安定と成長を目指す**

途上国の経済を安定させ成長を促すために、財政・金融、税関行政の適切な運営を支援します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

14. ジェンダー平等と女性のエンパワメント

**性別にとらわれず誰もが能力を発揮できる社会に向けて**

女性や若人のエンパワメントを推進し、人々の意欲・行動を支えることで、ジェンダー平等で公正な社会の実現を目指します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

15. デジタル化の促進

**DXで、一人ひとりが多様な幸せを実現できる社会へ**

デジタルの活用で一人ひとりの安全暮らしと多様な幸せを実現できる社会を目指します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

16. 気候変動

**途上国とともに、気候変動の脅威に立ち向かう**

早急な取り組みが必要とされる気候変動に対応するため、途上国の対応能力向上に協力し、持続可能な社会を目指します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

17. 自然環境保全

**次世代へ豊かな自然の恵みを引き継ぐ**

自然と人間の調和を図り、自然環境の減少・劣化を防ぐことで多くの恵みを享受し続けられる社会を目指します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

18. 環境管理

**環境の汚染を防ぎ、健康に暮らせるきれいな街へ**

廃棄物や、水・大気の汚染、健康被害を引き起こす環境の問題に取り組む、きれいな街をつくります。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

19. 持続可能な水資源の確保と水供給

**すべての人々が安全な水を得られる社会へ**

水資源を適切に管理し、すべての人々が飲料水等として持続的に利用できる社会を目指します。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

20. 防災・復興を通じた災害リスク削減

**強靭な国の基盤をつくり、命を守って経済を発展させる**

防災・復興は「人間の安全保障」と「持続可能な開発」に貢献する取り組みです。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

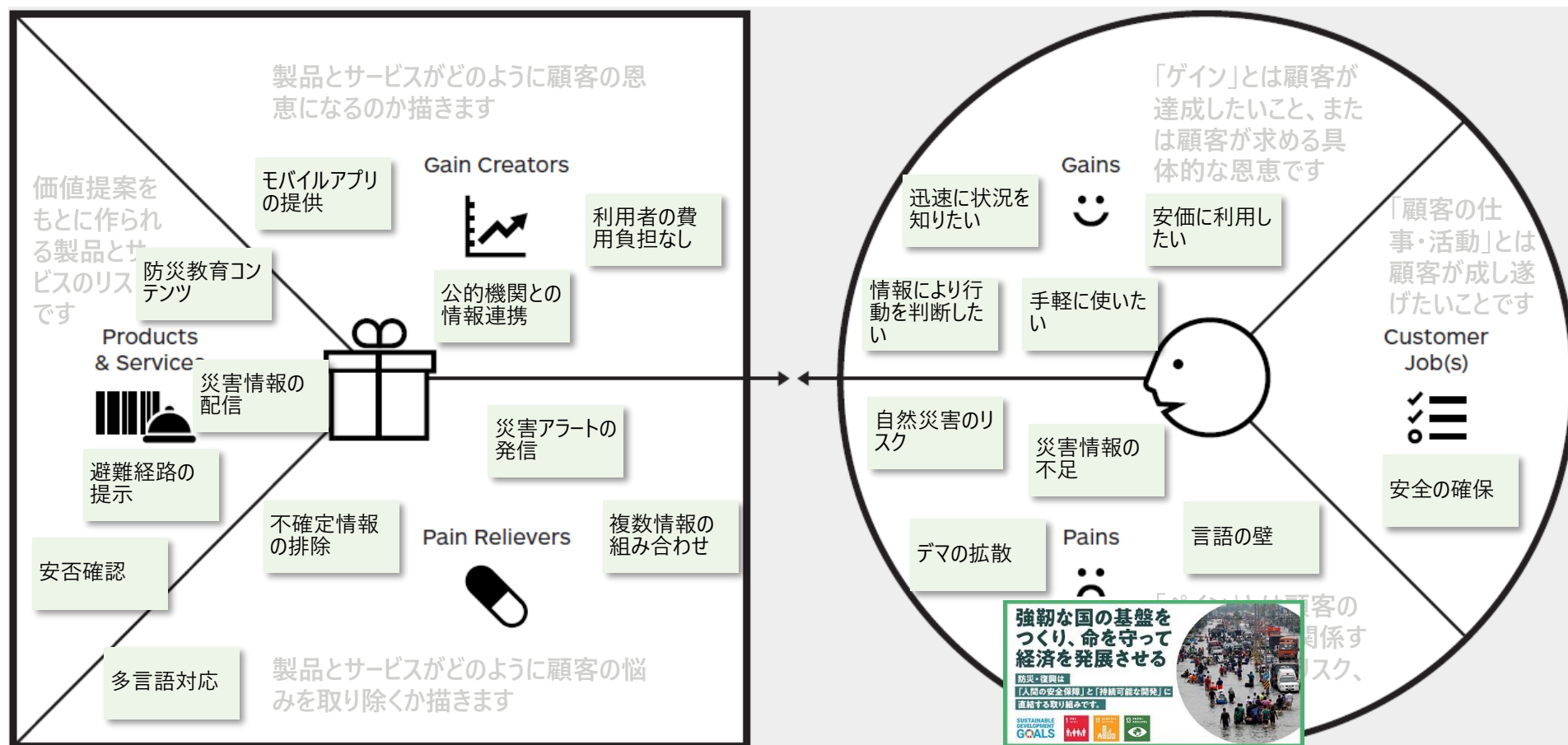
出所：JICA グローバル・アジェンダ (<https://www.jica.go.jp/activities/#anchor1>)

- **解説**

# 記載例 防災情報提供サービス

## 個人ワーク①

### バリュープロポジションキャンバス



出所：JICA インドネシア国防災情報サービス事業にかかる基礎調査 (<https://openjicareport.jica.go.jp/pdf/1000042397.pdf>) をもとに作成

- 開発課題へのインパクトを可視化するツール

開始 ~ 終了	ラップ	内容
13:00 ~ 13:05	5分	本研修の目的 講師紹介
13:05 ~ 13:15	10分	事業開発プロセスの全体像
13:15 ~ 13:40	25分	開発課題と紐づけた事業立案
13:40 ~ 13:55	15分	個人ワーク①（ワーク＋解説）
13:55 ~ 14:05	10分	開発課題へのインパクトを可視化するツール
14:05 ~ 14:20	15分	個人ワーク②（ワーク＋解説）
14:20 ~ 14:30	10分	Q&A

# 事業のアイデアを現地関係者に伝えるときによい方法はないのか...

## 開発課題へのインパクトを可視化するツール

社会課題を解決する  
事業をこの対象地域  
で展開したい



ある民間企業担当者



事業概要/製品・サービス概要/提案書



ある現地関係者（政府機関等）

- 提案事業が対象国の社会課題の解決にどのように貢献するのか、イメージしづらい
- 提案事業に対して、組織内部（現地政府組織）を説得する材料が足りない

# ロジックモデルを活用することで社会課題解決への貢献が見える化され、現地関係者の支持が得られやすくなります

## 開発課題へのインパクトを可視化するツール

ロジックモデル＝

『日々の事業活動に投入する資源が、どのような製品やサービスの提供（結果）ならびに社会的・環境的な変化（成果）の達成につながっているのか、視覚的に整理したもの』



AIを活用した子ども向けICT教材提供事業の例

### 具体例

- ・ ヒト
- ・ モノ
- ・ カネ
- ・ 情報

### 具体例

- ・ システム開発
- ・ 営業活動

### 具体例

- ・ 子供向けICT教材の提供
- ・ 子供との向き合い方講座の開催

### 具体例

- ・ 学習習慣の定着
- ・ 学力の向上
- ・ 進路・職業選択の実現
- ・ 親子関係の改善 等

# ロジックモデルは、事業の目的および期待される社会的インパクトの明示化ならびに関係者の巻き込みの観点から、有用なツールです

## 開発課題へのインパクトを可視化するツール

ロジックモデルを使うことの意義

事業の目的および期待される社会的インパクトが対外的に明示される

- 製品・サービスの社会的価値・意義を、顧客（特に途上国政府やドナー等）にアピールする際の**営業資料として使うことができる**
- 民間金融機関からのインパクト投資や国際機関や公共団体からの補助金・融資等の資金へのアクセスに際し、**社会的意義を説明できる**
- ロジックモデルの中で、社会的意義をもとに法整備/規制導入/規格の基準化等の必要性を示すことで、**途上国政府におけるルールメイキング**に際して、自社に即した内容に**支持を得られやすくなる**

事業関係者を巻き込みやすくなる

- 事業の目標や目指す成果、社会的効果の発現にあたっての落とし穴や阻害要因等に関する認識を**社外の関係者と共有し、協働のきっかけにできる**
- 自社の**採用活動**において、事業の社会的意義を**効果的にアピールできる**
- 現地パートナー（大学・現地企業等）との**連携を持ち掛ける際に、事業の社会的意義を説明できる**

# あるベンチャーキャピタルファンドでは、社会的インパクトを定量的・定性的に把握し、投資先企業の実施する事業や活動について価値判断を行うためにロジックモデルを活用しています

## 開発課題へのインパクトを可視化するツール

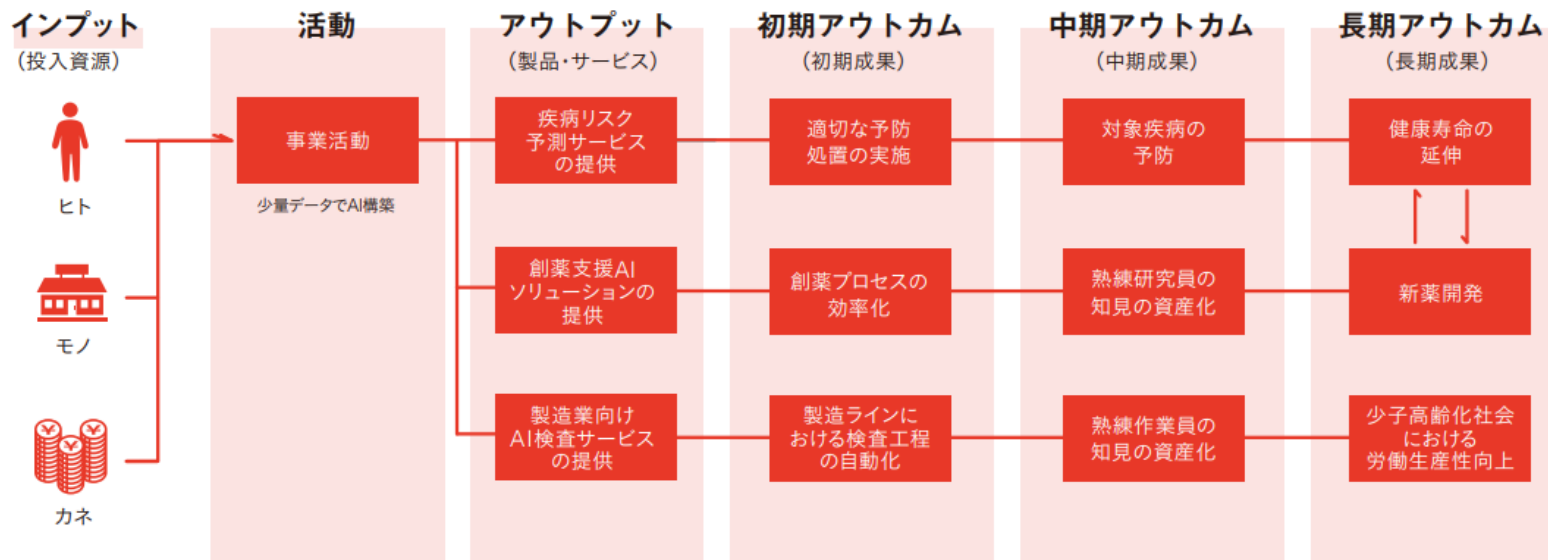
### ベンチャーキャピタルファンドにおける社会的インパクト評価事例

- 健康寿命の延伸ならびにヘルスケア分野における新しいビジネスモデル創出を目指すヘルスケア・ニューフロンティア・ファンド（HNF）は社会的インパクトを定量的・定性的に把握し、投資先企業の実施する事業や活動について価値判断を加える社会的インパクト評価を実施しています
- 投資先企業は、日々の活動が事業の目的に沿ったものとなっているかを都度確認し、事業内容の軌道修正を図る手段として、ロジックモデルを活用しています

投資・企業価値向上支援

### 投資先企業におけるロジックモデル活用事例

- あらゆる業種で、専門的知識の属人化が課題となり、業務効率の低下や知識・技術喪失のリスクがあるため（株）HACARUSは、高い技術力で、少量のデータから予測・識別できるAIを開発しています
- （株）HACARUSは、事業内容の整理と、ロジックモデルの作成を行い、データの収集/提供や社会的インパクトレポートの公開を行っています



出所：ヘルスケア・ニューフロンティア・ファンド2021 インパクトレポート (<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/13136/2021.pdf>)



- 個人ワーク②

開始 ~ 終了	ラップ	内容
13:00 ~ 13:05	5分	本研修の目的 講師紹介
13:05 ~ 13:15	10分	事業開発プロセスの全体像
13:15 ~ 13:40	25分	開発課題と紐づけた事業立案
13:40 ~ 13:55	15分	個人ワーク①（ワーク＋解説）
13:55 ~ 14:05	10分	開発課題へのインパクトを可視化するツール
14:05 ~ 14:20	15分	個人ワーク②（ワーク＋解説）
14:20 ~ 14:30	10分	Q&A

## 個人演習でロジックモデルを作ってみましょう！

手順 1 自身のビジネスアイデアを用いてロジックモデルを作成してみましょう（10分）

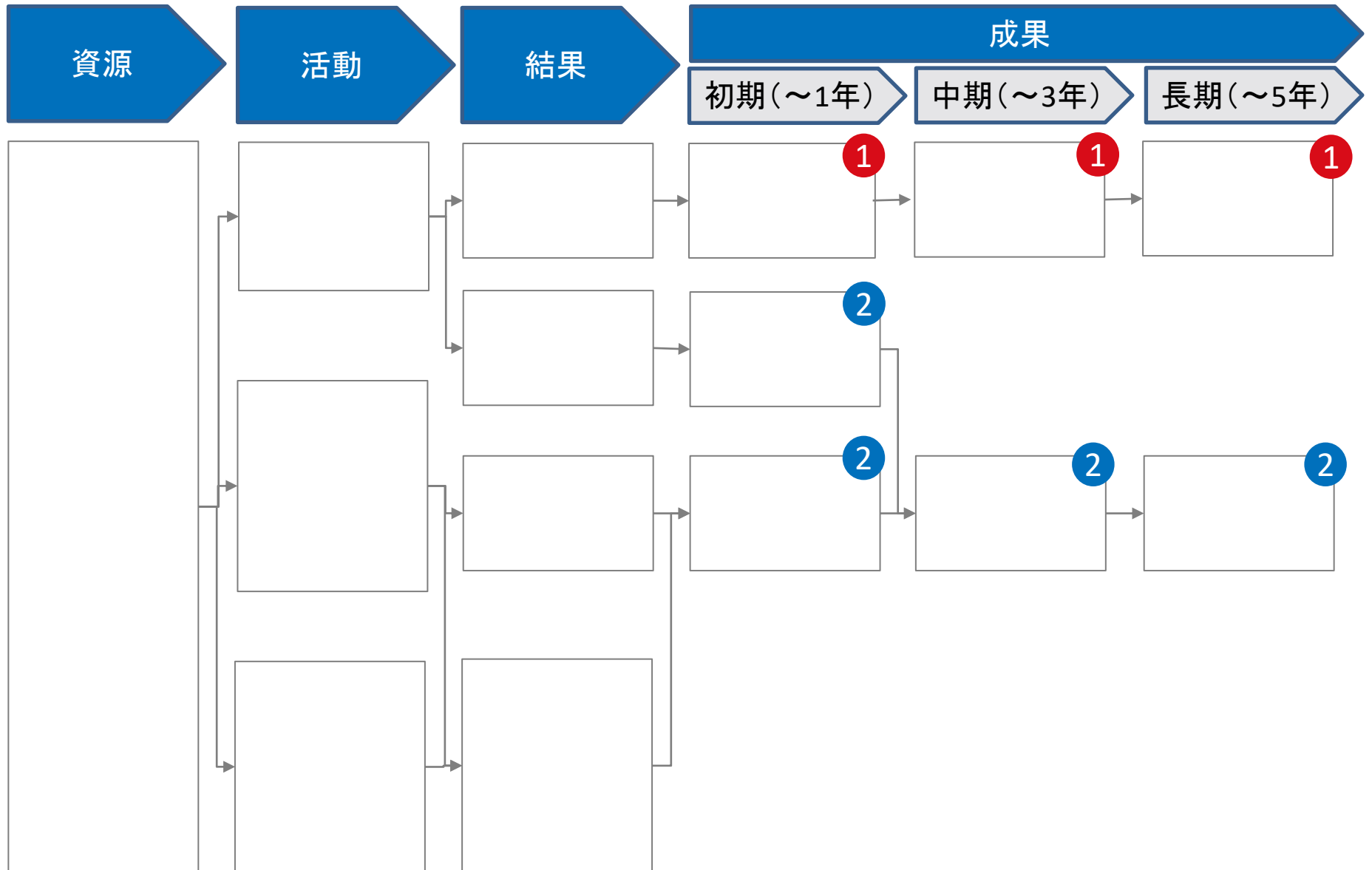
手順 2 ロジックモデルの作成例を見てみましょう（解説）（5分）

個人演習時間 15分

1 ...XXX

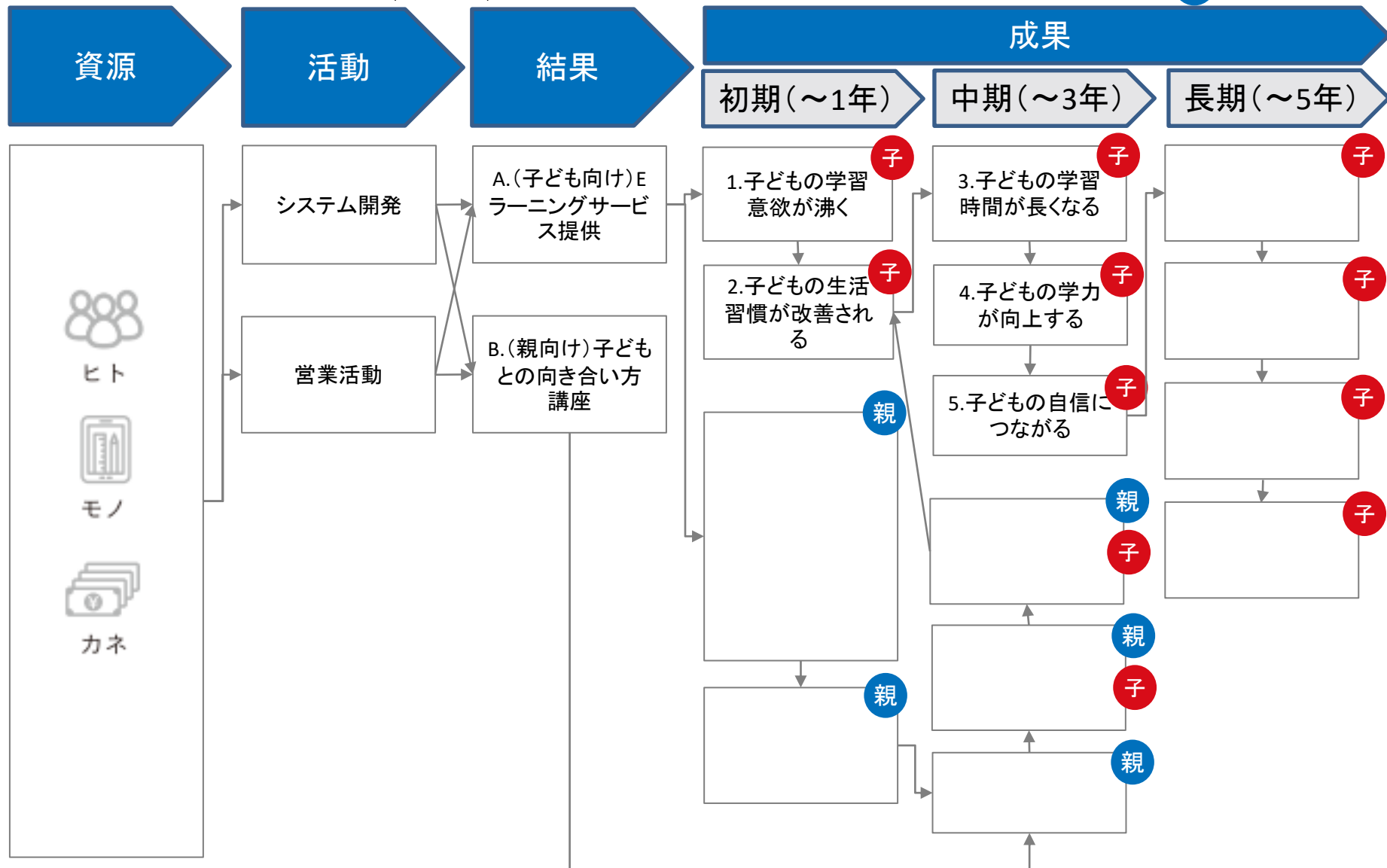
2 ...XXX

# ロジックモデル作成ワークシート



# ロジックモデルの作成例（ヒント）

子 …子ども  
親 …親

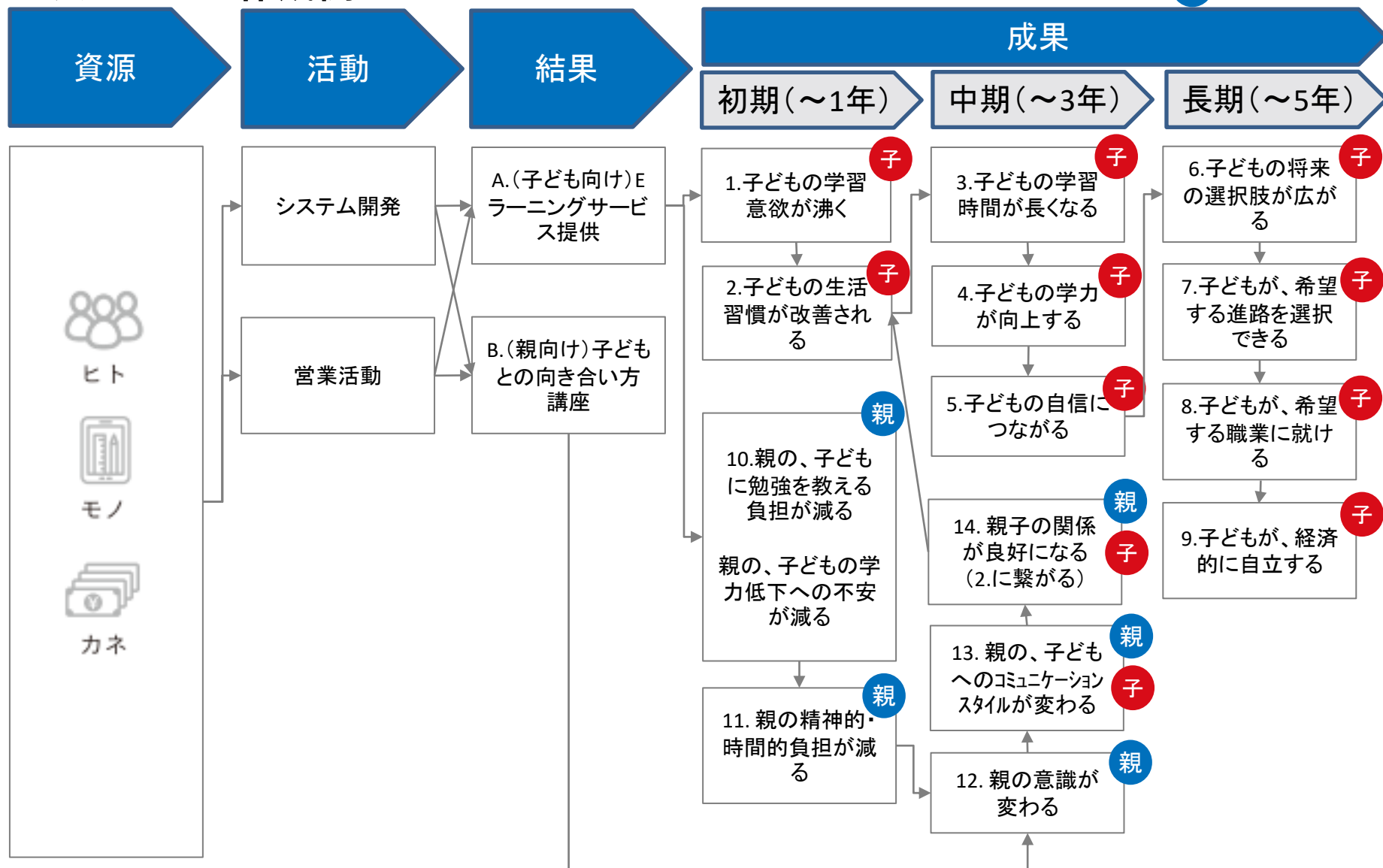


- **解説**

# ロジックモデルの作成例

子 …子ども

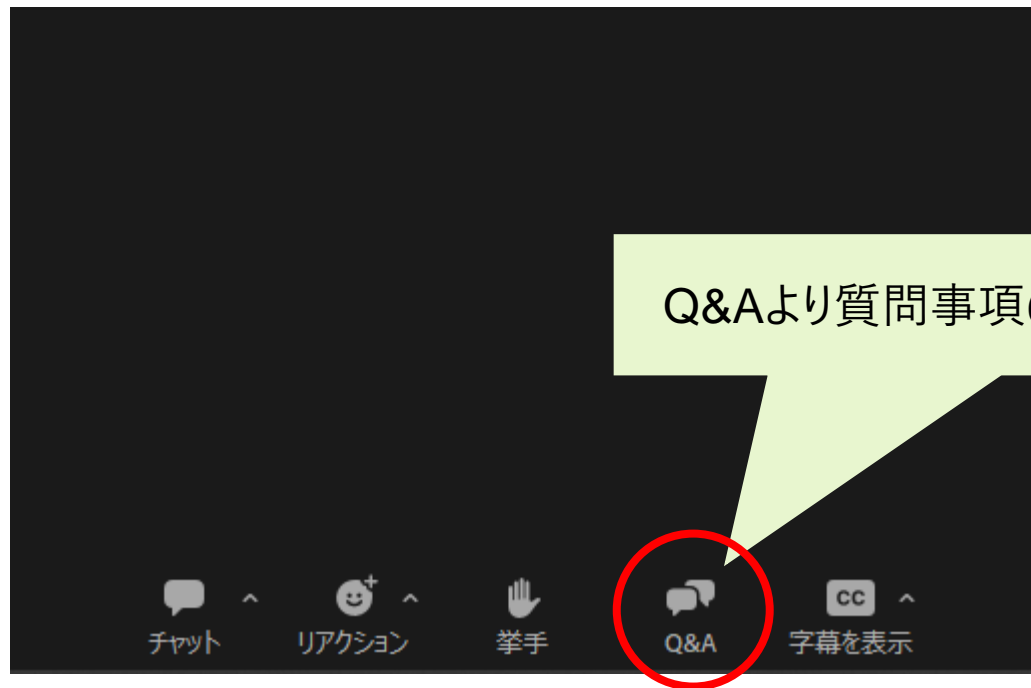
親 …親



※すららネット社インパクトマネジメントレポートのロジックモデルを参考事例として一部簡素化して作成。

[Suralanet\\_ImpactManagementReport \(siif.or.jp\)](https://www.suralanet.jp/impactmanagementreport/)

- Q&A



デロイト トーマツ グループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイト ネットワークのメンバーであるデロイト トーマツ 合同会社ならびにそのグループ法人（有限責任監査法人 トーマツ、デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社、デロイト トーマツ ファイナンシャル アドバイザリー 合同会社、デロイト トーマツ 税理士 法人、DT 弁護士 法人およびデロイト トーマツ コーポレート ソリューション 合同会社を含む）の総称です。デロイト トーマツ グループは、日本で最大級のプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従い、監査・保証業務、リスク アドバイザリー、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー、税務、法務等を提供しています。また、国内約30都市以上に1万5千名を超える専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト（[www.deloitte.com/jp](http://www.deloitte.com/jp)）をご覧ください。

Deloitte（デロイト）とは、デロイト トウシュート マツ リミテッド（“DTTL”）、そのグローバル ネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人（総称して“デロイト ネットワーク”）のひとつまたは複数指します。DTTL（または“Deloitte Global”）ならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体であり、第三者に関して相互に義務を課しまたは拘束させることはありません。DTTL および DTTL の各メンバーファームならびに関係法人は、自らの作為および不作為についてのみ責任を負い、互いに他のファームまたは関係法人の作為および不作為について責任を負うものではありません。DTTL はクライアントへのサービス提供を行いません。詳細は [www.deloitte.com/jp/about](http://www.deloitte.com/jp/about) をご覧ください。

デロイト アジア パシフィック リミテッドは DTTL のメンバーファームであり、保証有限責任会社です。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバーおよびそれらの関係法人は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィック における100を超える都市（オークランド、バンコク、北京、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む）にてサービスを提供しています。

Deloitte（デロイト）は、監査・保証業務、コンサルティング、ファイナンシャル アドバイザリー、リスク アドバイザリー、税務、法務などに関連する最先端のサービスを、Fortune Global 500® の約9割の企業や多数のプライベート（非公開）企業を含むクライアントに提供しています。デロイトは、資本市場に対する社会的な信頼を高め、クライアントの変革と繁栄を促し、より豊かな経済、公正な社会、持続可能な世界の実現に向けて自ら率先して取り組むことを通じて、計測可能で継続性のある成果をもたらすプロフェッショナルの集団です。デロイトは、創設以来175年余りの歴史を有し、150を超える国・地域にわたって活動を展開しています。“Making an impact that matters”をパーパス（存在理由）として標榜するデロイトの約345,000名のプロフェッショナルの活動の詳細については、（[www.deloitte.com](http://www.deloitte.com)）をご覧ください。

本資料およびその付属文書は、デロイト トウシュート マツ リミテッド、そのグローバル ネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人（総称して“デロイト ネットワーク”）の社員・職員のための内部限の資料です。本資料は、秘密情報を含む場合があり、宛先にある特定の個人または事業体による利用のみを意図しています。もしあなたが意図された受信者でない場合には、直ちに私たち（差出人）へご連絡ください。そして、本資料（あなたのシステムにコピーがある場合はそのすべて）を削除・破棄してください。本資料を、いかなる方法によっても利用されないようにお願いします。DTTL、そのメンバーファーム、関係法人、社員・職員または代理人のいずれも、本資料に依拠した人に関して直接または間接に発生したいかなる損失および損害に対して責任を負いません。DTTLならびに各メンバーファームおよびそれらの関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。

